

平成 27 年度第 1 回 広島県総合教育会議 主な意見【概要】

◇ 広島らしさ

- ✓ 「広島らしさ」として、本県の先進性を全国にもっと発信していくべき。
- ✓ 小項目⑥について、しっかり盛り込んでいくことが、広島の実情に応じた「大綱」になるのではないか。
- ✓ 何らかのハンディキャップがあっても、きちんと一人前になれたということも、広島で学んで良かったと思える日本一の教育県ということの 1 つではないか。
- ✓ 「広島らしさ」の中での「平和」ということについて、定義などの柱をしっかり作り、皆で目指していく共通の価値観、広島らしい価値観としていくことが大事。

※小項目⑥：教育上特別な配慮を必要とする児童生徒への支援

◇ グローバル・多様性

- ✓ 例えば、外国人と 1 つの価値を巡って議論することで、たとえ合意できなくても、それを乗り越える考え方として一人一人の心に残るのではないか。姉妹校提携や国際交流を通じて、そういうものを乗り越えられる広島の子供であって欲しい。
- ✓ 自分が海外に出なくても、既に我々は（世界と）繋がっているということを理解することは非常に重要。
- ✓ 世界に出ていく子や地元で家業を手伝う子がいる中で、多様性を持った教育ができるのが「広島らしさ」であり、そのことが広島で育ててもらって良かったと思える人間づくりになるのではないか。
- ✓ 色々な多様性の中で、子供たちが自分たちで色々なことを解決することができる力を身に付けさせることが大事。

◇ 幼児期から大学・社会人まで

- ✓ 小学校入学前の段階への支援が重要。ここをきちんと支援していくことが、5年後、10年後の広島県を見据え、とても意味があるのではないか。
- ✓ 「幼児期から大学・社会人まで」といった時に、縦の筋道は分かるが、横をどのように考えるべきか。緩やかな連携の中で、広島県の教育組織として 1 つの目標を共有することを、私立にも呼びかけてはどうか。
- ✓ 広島といえば「平和」。そのためには寛容性が大事。寛容性を身に付ける教育を「オール広島県」の 1 つとして「大綱」に盛り込み、横串を通して、幼児期から大学まで何らかの形で取り上げてはどうか。

◇ オール広島県

- ✓ 学校、家庭、地域だけでなく、経済界や産業界などが力を合わせないと、いくら良い教育をしても、次の世代に伝わらないのではないか。
- ✓ 学校がやるべき部分は多くあるが、色々な力を借りて、一緒に広島県の子供たちを育てていくということを「大綱」に打ち出すべき。